



世界に希望を生み出そう  
2023-24 RIテーマ

The Rotary Club of Koshigaya

国際ロータリー 第2770地区 第8グループ



# 越谷ロータリークラブ

事務局：越谷市越ヶ谷本町 8-7 TEL.048-965-0550 FAX.048-965-6000 Email. koshirc@crocus.ocn.ne.jp

◆会長／若海 宗承 ◆副会長／豊田 高行 ◆幹事／中村 聡久 ◆クラブ会報委員長／澤幡 智史

出席報告	会員数	出席者数	出席率	免除者数	メイクアップ	出席修正率
	90名	59名	69.41%	15名		

## ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

## 四つのテスト

- 1) 真実かどうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるかどうか

## 今月の例会予定

- 11/7 誕生・結婚祝、会員卓話「インジェクションスピーチ」  
須藤幸昌会員
- 11/14 地区大会 11/11,12 (土、日) に振替
- 11/21 会員卓話「趣味について」山本完治会員  
「インジェクションスピーチ」増田雄一郎会員
- 11/28 ゲスト卓話「プロスポーツ X 地域の可能性」  
越谷アルファーズの現在地と目指す姿  
(株)アルファーズ代表取締役 上原和人様

## ◆ 会長挨拶

皆さま こんにちは。本日も多くの会員の皆様にご参加をいただき、ありがとうございます。また、いつもながら会場運営委員会の皆様には早い時間からの準備、そして例会後の片付けと感謝申し上げます。

先ずは先日開催をされました越谷市民まつりにおいては多くの会員の皆様にご参加をいただき、ありがとうございました。当日は社会奉仕委員会の皆様青少年委員会の皆様、そして野村証券の皆様には朝7時からご準備にあたっていただき、誠にありがとうございました。有森さ職員の皆様へ御礼をお伝えください。さて皆さま、大きなのぼり旗が開催会場に掲げられていたのを覚えていらっしゃいますでしょうか。あののぼり旗の下には協賛企業名が書かれており、どの旗を目立つ位置に掲げるか、どの旗を掲げるのを止めるのかを木村副委員長の好き嫌いで決められておりました。若海建設と池中建設は最後まで転がっていたので掲げられないのかと思っていましたが、付度をいただけ一番目立つところに掲げていただけました。江原さん サラダ館はテント後ろに掲げられていましたね。何れにいたしましても晴天の下、三野宮卯之助力持ち大会も大盛況のうちに終了ができましたのは、会員の皆様のご支援があったからこそであります。話しはかわり、バイク同好会の皆さんが先日、日光方面へツーリングに行かれたとLINEグループへUPをされておりましたが、是非 同好会のリーダーの皆様会の活性化の為にも同好会を開催していただけますと幸いです。増元直前会長が同好会を引っ張って行っていただける事となっておりますので、宜しく願い致します。余談ではありますが、木村さんが免許もないのにバイクを購入し、既に納車されたと聞きました。変わった先輩ですね。また、日曜日に

## 若海宗承会長



財団奨学候補生第2回オリエンテーションが開催をされ、中村幹事、佐藤百合枝さんとともに参加してきました。先般のご報告をさせていただいたかも知れませんが、現在の学友会会長は越谷 RC がスポンサーをいたしました小池さんがお努めしております。1999年にイギリスへ留学をされたとお聞きしましたね。今回のオリエンテーション時に当時のお話を披露されて



学友会会長  
小池剛史さん

おりましたが、当時お世話になった坂巻さん、大野さん、新井さん等の多くの皆様へ感謝をさせていただきました。現在は鳩山町へお住まいですですが、例会へご参加いただけるとお約束をいたしました。さて本日は『インクルーシブ教育について』と題して、福田直実様へ卓話をいただきます。いつも通りググってみた所、端的に言う『障害のある子どもと共に学ぶ取組み』と言った所でしょうか。以前にも話をしましたが、私の甥っ子も障害者であります中学校までは普通学校に行かせ、健常者とともに勉学をさせておりました。私自身は健常者に囲まれたなかで多くの時間を過ごしてきましたが、甥っ子の件で障害者に目を向ける機会が多くなり、気にし始めると意外と身近に障害をお持ちのご家族がいるということに気が付きました。また、RCの会員の中には平野さんのお父様の様に私財を投じて施設を運営している方もいらっしゃいますし、我がクラブにもお名前は申しませんが、施設を支援している方がいらっしゃいます。今年度は障害者にも目を向けていただきたいとの思いで、中川委員長にお願いし千草園さんの支援、瀧田委員長へお願いしバングラディッシュでの支援を進めさせていただいております。是非 本日の機会を通してより一層の関心を持っていただけましたら嬉しく思います。それでは本日も宜しくお願い致します。

◆ 幹事報告

中村聡久幹事

- 1、来週 11月7日の例会終了後に定例理事会を3階大会議室にて開催します。理事・役員の皆様、ご出席を宜しくお願い致します。
- 2、本日をもってスーパークルーズは終了とさせていただきます。11月より上着・ネクタイ・バッジ等を着用の上ご出席頂ますようお願い致します。



◆ 委員会報告等

◎ 米山記念奨学委員会 澤田裕二委員長

本日は山田託也会長からご寄与を頂きありがとう

ございます。先ほど会長のお話の中で今日は企業会員の方が沢山いらっしゃるという事で、先日企業会員の皆様に企業会員でも寄付できるんだよ！名前が残るんだよ！というようなご案内をさせて頂きましたが今だありません。あと2ヶ月ありますので宜しくお願いします。

◎ 社会奉仕委員会 中川 訓委員長

越谷市民まつりの三ノ宮卯之助力持ち大会において皆様のご協力頂き誠にありがとうございました。有森さんには当日もさながら3日前、事前の打ち合わせの時に皆さんがお使いになっている駐車場が使えないことが当日判明し、急遽野村証券の素晴らしい会議室をお借りしました。いつもよりも活発な会議ができたんじゃないかと思えます。改めて御礼申し上げます。

それからもう一点、千草園の秋の旅行というのが10月19~20日に行われ、無事に皆さん楽しんで帰られました。早速、千草園の会長の高野さんからも礼状を頂いていますので少し紹介させていただきます。

「先日は私どもの施設の旅行に多大なご支援を頂き誠にありがとうございました。コロナ禍により4年ぶりの宿泊旅行となり職員も利用者も緊張の中出発しましたが、天候にも恵まれみんな楽しく過ごすことができました。」ということです。それからもう一点、これは地区からの連絡ですが、クリスマス婚活パーティーが12月17日(日)13時半から行われます。

参加ご希望の方、あるいは資格のある方はぜひご参加頂きたいと思っておりますので宜しくお願いします。

◎ 国際奉仕委員会 中島雅樹副委員長

11月6日(月)午後6時から稲荷家にて委員会を開きますので、出欠がまだの方はご連絡のほど宜しくお願い致します。

◎ ｻｰｸﾘｰ-財団委員会 松田繁三委員長

先日開催されたIM記念ゴルフのポリオプラス寄付として1万2千円頂きました。それとお詫びしなければいけません。先々週に私がR財団について説明をしましたが不適切な発言がありました。改めてお詫び申し上げます。「世界で良いことをするために越谷で悪いことをしてもらおう」と言いましたが、そんなことはありません。越谷でも良いことをしている皆さんに対して失礼な発言をしました。これからも引き続き越谷でも良いことをして、世界のために良いことをするために、R財団への寄付を宜しくお願い申し上げます。また、私の思惑では11月、12月と下がってくると思っています。R財団は6月まで大丈夫ですので、ぜひ年明けには猛攻勢をかけて資金を集めたいと思っております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

◎ 親睦活動委員会 吉野寛治会員

11月3～4日に親睦旅行で大阪方面へ行っています。今日、ご集金をさせて頂いた皆様方にはお配りしましたが、11月3日は東京駅の新幹線中央乗り換え口（東海道新幹線）7時に集合をお願いします。お間違えのないようお願い致します。

◎ **ロータリー情報委員会**

吉野寛治会員

本日、入会3年未満の方はコミセンでオリエンテーションを5時半から行いますので忘れずに参加頂くのと、6時半から香港亭にて家庭集会を行いますのでご参加の方は宜しく願い致します。もし欠席予定だったけど本日参加できるという方は、増元直前会長までご連絡をお願いします。



◎ **お知らせ**

吉野寛治会員

吉澤雅隆会員の事を皆さん覚えていらっしゃると思うんですが、昨日切開の手術をされて声が出なくなりました。15日から減菌との事で、14日夕方に行ってお話をし、昨日もショートメールを頂いたのですが、頭は非常にはっきりして生きてために、誤嚥性肺炎の危険性をなくすために切開に踏み切ったという事です。頭脳は以前と変わらず、さすが浦高、東大卒だなと。皆さんにくれぐれも宜しく伝えてくれという事でしたのでご報告させて頂きます。あと丸紅の1階のアートミュージアムにて吉澤正隆さんの声というのを選びますと吉澤さんの生の声で丸紅の美術コーナーを紹介しています。これは先にもう録音しておいたものを4～5人の方がいるんですが、その中であんまり選ぶ人いないんじゃないかなと思うんですけど、ぜひ機会があったら丸紅本社ロビー、アート展の方へも行って吉澤さんの声を聞いて頂ければと思います。

◆ **「インクルーシブ教育について」福田直実様**

◎ **紹介：小森秀彦会員**／本日

はインクルーシブ教育を考える会代表の福田直実さんにお越し頂きました。福田直実さんは越谷市在住でお子さんが一人、このインクルーシブ教育をまさに今体现されているご本人でもいらっしゃると思います。今、このインクルーシブ教育というのが少しずつ皆様のほうにも広まってきているかな、というふうに思うのですが、現状の教育現場ではどんなことが起きているのか、なぜインクルーシブ教育が必要なのか、我々企業側の大人の目線からはどんなことができるのかな、と他方面に亘ってお話を頂けたらと思います。



◎ **講師：福田直実様**／皆さんこんにちは。今ご紹介を頂いたインクルーシブ教育を考える会からきました福田直実と申します。少しでも何か持って帰れるものがそれぞれに残るといいな～という気持ちで頑張りますので宜しく願い致します。



まず私自身を紹介します。私は大阪と名古屋のほうで幼少期を過ごしていて、今現在実家は徳島県にあります。ここに写っているのが私の息子で福田レイと申します。私の主人はアメリカと日本のハーフで、息子はクォーターになります。この3人で徳島県から埼玉県の方に7年ほど前に引っ越してきて今現在は越谷に住んでいます。私自身、徳島にいた時は公立の中学校で英語の教員として勤めていました。2014年に生まれた息子が最初は元気に育ってくれていたんですけど6ヶ月の時に難病であるという事が分かりました。そこから180度生活が変わって、真っ暗なトンネルにいるような生活をずっと過ごしていました。もちろん私は仕事を辞めざるを得ない状況になってしまいました。そんな中、本当に沢山の人々からサポートを受けながら、私自身がやってきたことは一人じゃないよ、私もこんな風にして頑張ってるよ、っていうのを伝えるために、YouTubeを使って発信をしたり、障害を抱える又は持病があるお子さんを育てているお母さんたちに向けて、同じような境遇の人が集まれる場をという事で「ALL」という団体を作ったりもしてきました。そんな中、同じような志の人が集まって2022年、去年の5月に『インクルーシブ教育を考える会』を作りました。小森さんもメンバーです。その会の中ではインクルーシブ講演についてのアンケートを実施して公園の環境について公園緑地課に要望書を提出したり。つい最近では10月8日、文京大学の会場で『みんなの学校』というドキュメンタリー映画の上映会をさせて頂きました。そこでは300名を超える方にご来場頂き大成功に終える事ができました。私自身の理想としている社会はどんな社会かということ、障害があってもなくても、また国籍がどこであっても、誰もが普通に一緒に生活できる社会、そんな社会になってほしいなというふうな思いで色々活動しています。

今日のお話は4つに大きく区切ってお話しさせて頂きたいと思っています。

1つ目はそもそもインクルーシブって何？

2つ目はどうしてそれが重要なのかという話。

3つ目はインクルーシブ教育、インクルーシブ社会を実現するために必ず必要になってくる内容とは。

4つ目、最後は障害者雇用について。

さて、ちょっと質問なんですが、皆様の中で、家族に、親戚に、または一緒に働いている同僚などに障害があったり持病があったりされる方いらっしゃいますか？ちょっと挙手をお願いしてもいいですか。半数くらいですかね、ありがとうございます。今挙手頂いた方はこれから私がするお話をその方と重ねながら聞いて頂けたらいいなと思います。そうしてくだされば、より身近に捉える事ができるかなと思います。もしも身近にいないよという方は、これから高齢者社会になっていく中で10年、20年後にもしかしたら自分が当事者になるという事も考えられます。

当事者の目線でぜひお話を聞いて頂けたらいいなと思っています。

そもそもインクルーシブって話なんですけれども、言葉で説明するよりも、こんな図がいいかなと思ったので持ってきました。AとBとCとDの社会の状態があります。この中でインクルーシブな状態が一つだけあるんですけれども、どれだと思えますか。ちょっと挙手をお願いしたいと思います。Aの状態がインクルーシブな状態であると考えられる方。いらっしゃいますか？（ゼロ）

じゃあBの状態は？（ゼロ）ではCの状態は？（ちらほら）Dの状態は？（多数挙手）ありがとうございます。答えは、Dの状態がインクルーシブな状態です。今からお話しさせて頂く「インクルーシブ教育」とは、教育現場をこのDの状態で行う事を指します。障害のあるなし、それも含め、国籍も本当に多様な人がごちゃ混ぜに同じ空間の中で勉強する教育を受けるっていうのをインクルーシブ教育と言います。では、今現在の日本の教育現場で行われている教育はABCDのどれかに当てはまるのか？では、もう一回聞いてみます。では、Aかなという方。

（ゼロ）では、Bかなと思われる方（少数挙手）ではCは？（ほぼ挙手）Dは？（ゼロ）実は皆さん正解です。BとCの状態が、今現在日本で行われている教育現場の状態です。Bはいわゆる特別支援学校っていう状態で、息子は実はBの支援学校に入っているんですけれども、特別な支援が必要な子を別の学校に集めて教育を受けさせる。それがBです。Cはどんな形かっていうと、特別支援学級といって同じ学校にはいくんですけれども、学校の建物の中で支援が必要な子たちだけ集めて教室を作って教育を受ける。以上から今はBとCが主流です。本当はDが望ましい。これがインクルーシブ教育の形です。では、どうしてそれが重要なのかを私の経験談を通してお話しさせていただきます。先ほども言いましたが

息子は2014年に生まれてすごく元気に生まれてきてくれたのですが、生後4ヶ月の時に原因不明のてんかん発作を起こしました。そこから本当に天と地がひっくり返るぐらいに生活が逆転して「てんかん」という病気の中でも、特に治るのが難しいと言われている病気で、「ドラベ症候群」という病気がある事が10ヶ月の時に分かりました。この病気は一昔前には平均寿命は4歳と言われていたぐらいにすごく治療が難しい病気で、いつ何時何が起こるか分からないような病気です。てんかん発作もそうなんですけれども、知的障害も持ちますし、体を動かすのがすごく不器用で上手にいかない、あとは発達障害の傾向を持ったりもします。息子はそんな病気であるという事が分かりました。そしてこの写真を見て頂けたら分かるんですけれども、生活の基盤が私たちの家ではなくて病院に変わってしまいました。家から一歩外に出たらてんかん発作が起きて救急車を呼びます。救急車を呼んで病院で処置してもらってそこから入院して退院したと思ったら、またてんかん発作が起きるのを繰り返して、本当にこの先どうなるんだろうと思っていた時に転機が訪れます。夫の仕事の都合で埼玉に転勤になります。その時に病院を都内の病院に移しました。そこでドラム症候群について詳しいお医者さんに会う事ができ、薬の調整も本当に難しいのですが、かなり上手にして頂いて外に出てもある程度遊べる位になりました。もちろん今もてんかん発作はあるんですけれども昔は生活できないレベルだったので、以前と比べたら生活しながら楽しい事も制限はかけながらですが少しずつできる位になりました。それからコストコやレイクタウンなど行ってみたりしていく中で、一人息子で兄弟もいないし、学校にも普通の子のように通えないかもしれないけど、それに何歳まで生きられるかわからないけど、それでもこの人生をもっともっとカラフルにしてあげたいな、できるだけ沢山の経験をさせてあげたいなと思うようになってきました。幼稚園の年齢になった時に、地域の幼稚園に入れてあげて沢山の子どもと触れさせてあげたいと思い、入園説明会に行くんですがあっさりとして持病があるという理由で断られます。この時点で先ほどのスライドのBの状態を経験します。そこで次は児童発達支援センターだったらどうだろう、これは幼稚園とはまた別の枠になるんですが、障害や持病を抱える子が集まっている幼稚園みたいな場所なので、ここだったら自由に遊べるかなと思いき、ここに入学して通わせて頂くんですけど、ここでも実はすごく苦しい思いをする事になります。息子の病気はすごく特異な病気なので、何をしても「てんかん発作が起きるか？起きないか？」という事で先生たちは心配をします。例えば遠足「レイ君

はバスの中で発作になっちゃったら怖いから、お母さんどうする？休む？」と、結局やんわりと遠足に行けないように話を持って行かれたり、また他のお母さん方はバスに子どもたちを乗せて登園させるのですが、うちの息子はバスに乗っている間に発作が起こったら怖いからという事で毎日送り迎えをしていました。先生方が不安だからという事で私も駐車場ですと待っていたり、基本つき添いそういうような生活をするようになります。

先ほどのスライドのBの中の小さい枠の中にいたはずなのに、さらにそのBを経験するような状態になっていました。では小学校は？と思って小学校を上がる際に支援学級を見学に行きます。そこに教育センターから来られていた方に私の息子の病気の話をしたら命が大事なんだったら支援学校じゃないの？と言われて、結局ここでも同じでした。すごく苦しい経験を子育てをしていく中で何度もしてきました。そこで感じたのが、本当に選択肢がないという事です。普通の一般の子供達だったら沢山ある選択肢なのに息子は持病があって障害があるというだけで選択肢が1個しかない。限られたその1個の選択肢の中でも、なんでこんなに苦しい思いをしなければいけないの？また周りを取り囲む大人たちが工夫をしない？工夫がない？という事です。できるかできないかという選択肢をいつも迫られます。するという事が前提で、これを息子ができるようにするためにはどうしたらいいかという工夫は全くなかったです。選択肢の話し合いがない。私はもちろんリスクがあるのも重々承知の上で、それでもいい経験をしてほしいからお願いしているんです。私たちの気持ちに聞いてくださるような話し合いの場はなかった。私の息子のような難病があるから、特に命を脅かすような病気があるから仕方ないかなと思う方もいらっしゃるかもしれません。そういった特別な病気を持っていない子たちに関係する数字が「11分の1」。もしかしたらニュースでご覧になった方いらっしゃるでしょうか？「11分の1」がどんな数字を意味するかわかる方いらっしゃるでしょうか？実はこれは一般の学校に通っている子の中でも、それでも発達障害を持っているかもしれない可能性がある子の割合です。パッと見のうちの子のように障害があるようには見えないんですけど、一般の学校で地域の学級に通っているのに、その中でも11人に1人の子が学び方にすごく困難を抱えていたり、生きる時にすごく困難であると思っている。現場の先生に話を聞いてみると11人どころじゃないよ8人、いや5人に1人くらい困難を抱えている人がいるんじゃないかなと思うと言っています。学校は「社会の縮図」といわれていると思います。社会は今、多様性がどんどん認められて多様化が進んでいる中で、そ

の縮図である学校がこういうふうにして多様な人がいることを認められない、そんな環境でいいのか、いや、そうではないはずと思いました。もともと、小さい頃から人は1人1人違って、それでよくて、1人1人に必要なサポートがあれば、一緒に生活をできるんだというのを頭ではなくて肌で感じる事で大人になった時にも、それが当たり前前の社会にすっと出ていけるはずだと考えるようになりました。そしてその思いがこの前の上映会の時に確信に変わります。上映会では『みんなの学校』というような上映をさせていただいたんですけども、大阪にある一般の公立の小学校で、いわゆるインクルーシブ教育をされている現場を映したドキュメンタリーだったんですけど、その中ですごく重度の障害を抱えている子どもの鼻水を一緒にクラスの女の子が汚いとか言わずに普通に当たり前のように拭いてあげていたり、運動会では手を引いて一緒に走っていたり、それが本当に当たり前に行われていました。それを見て、やっぱり小さい時からそれが当たり前であるという環境を作っていく事って大事なんだなというのを痛感しました。

インクルーシブ教育が重要であるというのを踏まえて、インクルーシブ教育またはインクルーシブな社会を作っていくためにどんなことが大事なのかというと、これが最近言われている言葉なんですけれども、「合理的配慮」という言葉をもしかしたら聞いたことがある方いらっしゃるかもしれません。「それぞれに必要なものは何か」という発想で配慮をしていく事です。これからの社会で対応が進んでいく中、教育現場に限らず必ずこの「合理的配慮」というのが必要になってきます。

今の「合理的配慮」がどんな場でも必要だというのを踏まえて次のお話に移りたいと思います。障害者雇用の実態です。私が最近聞いた話で、あるお子さんが支援学校の高等部を卒業されて障害者雇用のある企業に就職されたそうです。お母さんもお子さんもすごく喜んで就職されたのですが数日経って就職できなくなりました。なぜかというところを実際行ってみたら。働く先の環境が劣悪で一緒に働いている従業員の方がやっぱり理解のない方だったので、そういうつもりはなかったかもしれないけど、その子にとってはいじわるをされている、いじめられているという状態になってしまいました。それでもうこれ以上働けないとなって、結局その会社を辞めるようになってしまいました。今のは当事者側の話です。

「障害者雇用をするのであったら、ちゃんと環境を設定してよ。ちゃんと整えてよ」というのが当事者側の気持ちなんですけど、企業側の気持ちを考えるとどうかというと、「そんな事を言ったって、どうやってやったらいいのかわからないよ」というのが

本音かなと思います。私の友達で企業家の方がいるので、ちょっとお話を聞いていたら今は人口減少の傾向で、それに伴って労働人口も減少しているので、やっぱり外国人の雇用だったり障害者の雇用というのは積極的にしていかなないと、企業がこれから生き残ってい

けないけど先程の難しさがある。その中ですごく大事な考え方が「ダイバーシティ&インクルージョン」という考え方です。この考え方ができる企業とできない企業で、これからの生き残りがかかってくるそうです。これから生き残っていく企業は必ず、この「ダイバーシティ&インクルージョン」という考え方をもって制度を進めていかなければいけない。どういう考え方なのかというと「多様な人材を生かしてその能力が発揮できるようにする仕組み」です。それは障害があるなしとか外国籍であるというのには関係ないです。そんな考え方をもって実際に障害者雇用をされている会社のインタビューで実際に障害者雇用を推進してよかった点はたくさん見られます。「従業員における障害者への理解が深まった」、これは一番大きな点ですけれども「一緒に働ける環境が整ってきた」「ダイバーシティが推進された」「人手不足が解消された」「企業イメージが向上した」「業務の切り出しが進んだ」というメリットが出てきました。これは企業側のメリットで、またこういうふうな企業に勤めている障害者も必ずメリットを感じているはずで、まさにウィンウィンの状態なわけです。この企業側が大切にしていることは「仕事の機会を与えてあげる」という上から目線の考え方ではなく「自分自身として能力が発揮できるのを見つける」、こういった考え方にシフトする事で双方にとって利益を生むような働き方ができる。という話でした。そうはいつでも現実には難しいと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、実は何十年も前から日本で障害者雇用を実践している会社があります。この間の24時間テレビのスペシャルドラマの題材になった会社です。私もこれを見てすごく感動しました。この会社は「日本理化学工業株」という会社です。従業員が何らかの形で障害を持っています。でも同じ空間で一緒に働いているそんな会社です。実際にこの日本においても可能という事が実証されていると思います。大手の企業で言いますと「トヨタ」もその一つです。トヨタもかなり積極的に障害者雇用を推進しています。「聴覚障害がある人はここのラインに来てね」「視覚障害のある人はここ来てね」と決めつけるのではなく、この人は何が大事かと言っているかというところとやっぱり対話が重要。どういうふうに接してほしいというのをこちら側が伝える事もそうだし、聞いてほしいという話をインタビューでしていました。前半

にお話ししたインクルーシブ教育現場だけに頼っていくのではなくて、後半でお話ししたような会社、または社会も一緒になって多様化が進んでいく中で、多様性を受け止める、受け入れる、一緒に生活していくという事を推進していく事、教育と社会が双方で同じような考えを持って進んでいく事で、インクルーシブな共生社会というのが実現また促進されていくのではないかなと思っています。

今日のお話は以上になりますが、何かお持ち帰るものが少しでもあったら嬉しいです。最後になりますがこの話をさせていただこうと思った時に息子の学校からこんなチラシが配られました。11月25日に、企業宛てに「障害者雇用で地域を元気に」というワークショップが行われるそうです。越谷の企業なんかもゲストとしてのお話に来られるみたいなので、もし興味がありましたら、小森さんから情報を皆さんに送って頂くようにしますのでご覧ください。本日はどうもありがとうございました。

### ◆ ビジター・ゲスト紹介

講師：福田直実様

#### スマイル報告（敬称略）

※越谷市民まつりの盛会おめでとうございます。/ 鈴木幹夫様

\*①福田直実さん本日はありがとうございました。障害者と健常者が普通に、共に生活できる社会が来る事を望んでいます。甥っ子の学校を探すのに苦労した事を思い出しました。②3日、4日と大阪へ親睦旅行に行ってみます。松田先生の言葉を借りますと大阪の夜で良い事をしましょう。でしょうか。江藤委員長、守れますか？③レイクタウン駅伝部へ若海・中村聡久・常峰・澤幡の4名で参加致します。11/5（日）14:30に出走です。法人会青年部の皆様には絶対に負けません。私、常峰頑張ります。/ 若海宗承会長

\*①福田直実様インクルーシブ教育についてとても勉強になりました。ありがとうございました。②5日のレイクタウンマラソンに出るためにチョコザップに入会しました。当日は頑張ります！/中村聡久幹事

\*福田直実様、本日はとても大切なお話を頂きありがとうございました。/中島美三郎

\*①福田直実様、本日は卓話をありがとうございました。急増している障害を持つ児童が普通に暮らせる社会をつくりましょう！②吉澤雅隆元会員の手術を聞き、彼の決断に心打たれました。ラインで事業継承の話をお互いに交わしてから4ヶ月経ちますが早い回復を祈念します。③越谷市民まつりを欠席しました。法事と重なってしまいました。/新井 進

## 越谷ロータリークラブ週報 VOL.2758

\* 福田直実様、「インクルーシブ教育について」ご自身の実体験についてのお話を大変ありがとうございました！/山田二三夫

\* 越谷市民まつりが無事終了。社会奉仕委員会の皆様お疲れ様でした。/石河秀夫

\* 福田直実さん卓話ありがとうございました。/須賀定吉

\* 米山記念奨学会へのご寄付をお願い致します。特に企業会員の皆様宜しくお願いします。（できれば後2ヵ月以内で）/澤田裕二

\* 福田直実様、インクルーシブ教育の実践のお話ありがとうございました。/坂巻邦夫

\* 福田直実様、インクルーシブ教育について分りやすく説明頂きとても良く分りました。/鮫島弘武

\* 福田直実さん明るくみんなで歩みましょう。/吉野寛治

\* 福田直実さん本日は貴重な卓話を聞かせて頂きありがとうございました。/浅見富司雄

\* ①インクルーシブ教育を考える会 福田直実様、本日は貴重な卓話をありがとうございました。②本日のオリエンテーションと家庭集会にご参加の方ありがとうございました。/豊田高行

\* 障害者こそ社会とのふれあいが大切です。福田直実さん素晴らしいです。/深野洋二

\* ①福田直実様インクルーシブ教育のご講演、深く考えさせられました。ありがとうございました。②ロータリアンの皆様、産業フェスタでは徳之島町の出店にご尽力ご協力頂き誠にありがとうございました。特に中島パスト会長・江原パスト会長、多大なご支援を賜りありがとうございました。/松田繁三

\* 福田直実様、本日は卓話をありがとうございました。分りやすくとても勉強になりました。/森田隆

\* 福田直実先生、貴重な卓話をありがとうございました。/平田徳久

\* 福田直実様、卓話お疲れ様でした。インクルーシブ教育について大変参考になりました。ありがとうございました。/増元 晃

\* ツーリング部の木村です。バイクに乗るにも必死でお土産を買ってくる余裕がありませんでした。ですから次のツーリングは内緒で行ってきます。/木村淳一

\* 増元さま始め浅見様他ツーリング部の皆様、私の誕生日を遠い日光より頂きありがとうございました。/清水勝吉

\* 福田直実様、今日は貴重なお話をありがとうございました。/中島雅樹

\* 福田直実様、本日は貴重なお話をありがとうございました。/近藤正成

\* 越谷市民まつり「力持ち大会」の盛会お疲れ様でした。参加できず申し訳ございません。/野口和幸

\* 福田直実様、貴重な卓話をありがとうございました。/常峰光雄

\* 福田直実さん卓話をありがとうございました。/小森秀彦

\* 福田直実様、素晴らしい卓話をありがとうございました。インクルーシブ教育が当たり前の世の中になるように一緒に頑張りましょう！/大野凜子

\* 福田直実様、大変興味深い卓話をありがとうございました。/春山祐一郎

\* 福田直実様、卓話をありがとうございました。/陶山史朗

\* 本日、早退させて頂きます。申し訳ありません。/有森健太郎

本日 37 件 41,000 円 累計 938,000 円

